

「直正公嗣子淳一郎君種痘之図」
佐賀県医療センター好生館所蔵



伊東玄朴の弟子・大石良英が鍋島直正の息子(直大)に種痘を行いました

予防接種で国を救った:



いとう げん ぼく
伊東 玄朴
1800-1871 (神埼市)

幕末、長崎の鳴滝塾でシーボルトにオランダ医学を師事。致死率20~50%にも上り恐れられていた天然痘を予防するための種痘(予防接種)の効果を説き、痘菌を友人の医者に分けるなど普及に努めました。また、種痘を広めるために西洋医学所(現東京大学医学部)を創設。東洋医学が主流であった江戸時代に、新進の学問の蘭学を採用し医療改革を行いました。

さが幕末維新伝 ~外伝~

日本の近代化をリードした佐賀
そのとき佐賀は世界を見ていた

明治政府の中樞(参議)に
佐賀県人の活躍あり!



山口知事が大隈重信侯に扮して逸話を紹介するのである
※「~であるのである」は大隈が好んだ語調です

<参議>

明治政府には、国策を担う「参議」という重要な役職がありました。歴代参議に、西郷隆盛、木戸孝允といった薩長土肥出身の明治の偉人の名前が並ぶなか、佐賀から副島種臣、大隈重信、江藤新平、大木喬任の4名が名を連ねていました。

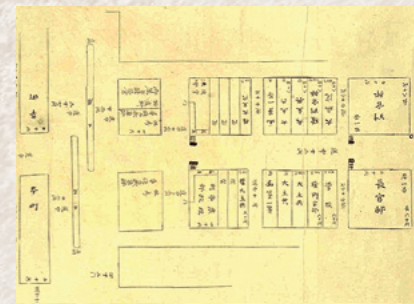
幕 末・明治維新时期、日本の西洋近代化を最先端でリードしていた佐賀。世界にも誇れる高い工業技術、そして日本をリードする優秀な人材を数多く輩出しました。今回は、県民だより「さががすぎ」幕末維新伝で未登場の幕末・明治期の佐賀の偉業をゆかりの地とともに紹介します。

熱い心で北の大地を切り拓いた:

しま よし たけ
島 義勇
1822-1874 (佐賀市)



初代開拓使長官であった10代佐賀藩主鍋島直正の下、開拓判官として任地に赴きます。北海道開拓の父と呼ばれ、ほぼ無人の原野であった札幌に「五州第一の都」(世界一の都)を造るという壮大な構想を描きました。北の厳しい環境の中で今の札幌の基礎を築き、今なお地元でたたえられています。札幌の碁盤の目のようなまち並みは、京都や故郷の佐賀などをイメージしたと言われていました。



島義勇が残した最初の札幌都市計画図
いしかりのくにほんぶさし
【石狩国本府指図】/北海道大学付属図書館所蔵

札幌市役所のロビーに立つ像



約2年間にわたって歩き続けて調査。一日になんと70kmも歩くほど。仕事に熱い偉人だったのである

行ってみよう!
島義勇屋敷跡
佐賀市与賀町1358
☎0952(40)7110 (佐賀市観光振興課)



News 今年11月頃、島義勇の銅像を佐賀城西御門跡付近に建立します

日本初

鉄製の火砲鑄造に成功

もとしま とう だ ゆう お いた て が た
本島 藤太夫をはじめとした**御鑄立方の七賢人**
1811-1888 (佐賀市) (反射炉を造り上げた技術者集団)

鍋島直正は、本島藤太夫を主任として、翻訳家、和算家、鑄物師、刀工など7人の精鋭を集め、鉄製火砲鑄造のプロジェクトチームを結成しました。しかし鑄造は何度も失敗。試し打ちで大砲が破裂することも。結果が出ないことに責任を感じた本島は切腹を申し出ますが直正が一喝。奮起した本島らは、試験と研究を重ねて16回の試し打ちを行い2年の歳月をかけて日本初の火砲鑄造に成功しました。



レプリカを佐賀城本丸歴史館に展示中!

御鑄立方の七賢人
幕末期最先端の佐賀の職人集団
本島藤太夫(主任)、杉谷雍助(翻訳家)、田中虎六郎(漢洋両学に通じた識者)、馬場栄作(和算家・設計)、谷口弥右衛門(鑄物師)、橋本新左衛門(刀工)、田代孫三郎(財務)

行ってみよう!
佐賀城本丸歴史館
佐賀市城内
2丁目18-1
☎0952(41)7550



日本初

女性理学士の道を作った:パイオニア

くろ だ
黒田 チカ
1884-1968 (佐賀市)



大学での授業風景。英国留学後、理化学研究所で研究を重ね理学博士となりました / お茶の水女子大学所蔵

女性の大学進学への門戸が閉ざされていたときに勉学に励み、29歳で日本初の女子大学生として東北帝国大学に入学。1918(大正7)年には、初の女性理学士としてシコニンと命名した色素の構造を論文に発表。生涯を通して天然色素の研究を行い、多くの功績を残しました。

行ってみよう!
さほし
佐星醤油
佐賀市唐人
1丁目1-16
☎0952(23)4624



佐星醤油の4代目吉村吉郎氏は黒田チカの兄

現在では考えられないが当時、女性の大学入学は、大きな反響を呼び、「日本開闢(にっぽんがはじまって)以来初めて」などと新聞に報じられたのである



「築地反射炉絵図」
公益財団法人鍋島報効会所蔵



唐津の近代化に貢献

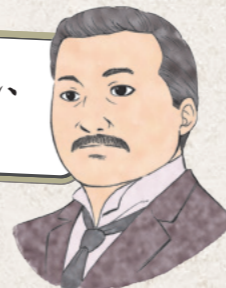
おお しま こ た ろ う
大島 小太郎
1859-1947 (唐津市)



唐津藩英語学校「耐恒寮」の第1期生の一人で、後に首相を務めた高橋是清の教えを受けた秀才。佐賀銀行の前身である唐津銀行を創立しました。また、唐津と佐賀・博多・伊万里を結ぶ鉄道(現在のJR唐津線・筑肥線)や浜崎-福岡間の海岸道路の敷設、市街地の電化、唐津港の整備など、地域産業の振興と郷土の近代化に地元経済界の指導者として大きな足跡を残しました。

農村の青年たちの力を引き出し、国を動かす力に変えた:

た ざ わ よ し は ら
田澤 義鋪
1885-1944 (鹿島市)



学校教育とは無縁だった地方農村の青年たちに、教育や自己修練の場を与える活動に力を注ぎました。生涯を通して青年団運動・青年教育とともに、不正のない選挙粛正運動にも尽力し、「青年団の父」と称されています。

行ってみよう!
田澤記念館
鹿島市大字高津原434
☎0954(63)1622



貼り薬で佐賀を代表する製薬業の礎をついた:

なか とみ さぶ ろ う
中富 三郎
1876-1957 (鳥栖市)



「快腹丸」(健胃下剤)
「朝日万金膏」(鎮痛消炎貼付剤)などを発売し、鳥栖の売薬を国内、海外にも販路を伸ばす企業へと発展させました。また、国民的な貼り薬も開発しました。

行ってみよう!
中富記念くすり博物館
鳥栖市神辺町288-1
☎0942(84)3334 ※要入館料



旧唐津銀行の設計は、耐恒寮で大島の同級生だった辰野金吾の愛弟子・田中実が手がけました



設立当初の唐津銀行 / 佐賀銀行百年史より

行ってみよう!
旧大島邸
唐津市南城内4-23
☎0955(73)0423

